

佳作

初めての転校

千葉県流山市立小山小学校四年 赤津 颯人

九月のある日、ぼくが弟とあそんでいる時、お父さんが呼んだ。

ぼくは弟と一緒にリビングに行った。

お父さんは

「来年の三月に引っ越しすることになった。」
と言った。

ぼくらは泣き始めた。それはあたりまえだ。

なぜならぼくらは、九年間も札幌に住んでいて、弟は札幌で生まれてきたし、ぼくも弟もたくさんの友達がいるからだ。

ぼくは二回目の引っ越しだけど、おぼえていない。なぜなら〇才の時に引っ越しをしたからだ。

友達には、まだとても言えない。担任の先生には言っただけどぼくは、

「まだ、みんなには言わないでください。」

とたのんだ。

十一月、大親友に引っ越しことを伝えた。とてもショックをうけていた。ぼくもとてもいう時にショックをうけた。

二月、クラスの女子の一人の子が引っ越しが決定して、二人の転校の事を先生からクラスメートに伝えてもらった。言った直後、辺りがシーンとなった。その後、クラスでパーティーやお楽しみ会や別れ会を開いてくれて、とてもうれしかった。クラスメートは一人一人手紙と手作りプレゼント、一・二年生のクラスメートは手紙、他にも引っ越しした友達や幼稚園時代の友達や近所の友達も、手紙を持って遊びに来てくれたりした。

引っ越しの日、みんなからももらったプレゼントをみてウルツときてしまった。

空港にはおばあちゃん、お母さんのお兄ちゃんとお姉さんが来てくれた。飛行機ではみんなの事を思い出して、泣いてしまった。

引っ越し先の千葉県流山市に着いた。新しい家に着いて家がきれいでやったーと思った。だけど札幌の家の方がよかったなともちよっと思った。

初めて新しい学校に行くと、広さが前の学校の二

倍あってびっくりした。

新しいクラスメイトに初めて会って不安がいっぱい
いで心細かった。でも担任の先生がとても優しく、
それで安心もしたし、遊んでくれたし、クラスメー
トが声をかけてくれたり、四か月たってすっかり学
校にはなれた。

札幌の学校も流山の学校もいいと思っていて「ど
っちだろう」と考えたら、やっぱり今はまだ札幌の
方がいいなと思った。ぼくだった。